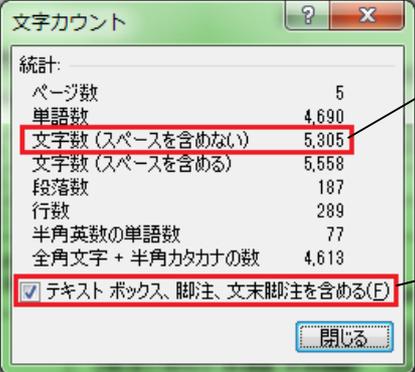


# 第40回(2017年度)法政大学懸賞論文募集要項

<p>■応募資格</p>	<p>◆<u>法政大学の学部・通信教育部に在籍の学生であること</u></p> <p>(※大学院生、科目等履修生を除く)</p> <p>◆<u>未発表の論文であること</u></p> <p>応募は個人または共同のいずれでも可能です。ただし、他大学の学生や大学院生および本学の大学院生や卒業生など応募資格のない者との共同作成は不可です。</p>
<p>■提出受付期間</p>	<p>2017年9月25日(月)～2017年10月2日(月) 【厳守】※当日消印有効</p>
<p>■論題</p>	<p>論題は自由です。各自の関心に基づき自由に設定してください。</p>
<p>■言語</p>	<p>日本語もしくは英語。</p>
<p>■字数・文字サイズ</p>	<p>■日本語の場合：24,000字以内／10.5ポイント／40字×40行</p> <p>■英語の場合：8,000語以内／12ポイント／30行</p> <p>※目次・註・図表・文献・統計類を含みます。 ※表紙は除きます。</p> <p>&lt;字数のカウント方法について&gt;</p>  <p>① 文字数はここを参照。 ※英語の場合は、「単語数」を参照。</p> <p>②</p> <p>Wordの「文字カウント」機能でカウントを行い 「文字数(スペースを含めない)」の箇所を参照してください(図①)。</p> <p>なお「テキストボックス、脚注、文末脚注を含める」に✓を入れて カウントしてください(図②)。</p>
<p>■提出形式</p>	<p>1. 紙媒体(A4版) 2. 電子媒体(1枚のCD-ROMまたはUSBメモリ) ※紙媒体と電子媒体の内容に差異のないようにしてください。</p> <p>提出方法(p.4)を確認のうえ、<u>紙媒体・電子媒体の両方</u>を 提出締切日までに提出してください。</p>

# 法政大学懸賞論文

法政大学懸賞論文は、本学学生のみなさんの研究活動を奨励し、論理的記述に関する能力の訓練・向上を図るとともに、優れた論文を広く社会に公表することを目的としており、今年で40回を数えます。論文は単なるレポートとは異なり、先行研究を十分に検討して書かなければいけないなど、いくつかの約束事を守る必要があります。これには日頃よりゼミ等で能力向上に努めるなど、継続的な努力が必要です。しかしながら論文の書き方を身につければ、自分が言いたいことを、説得力をもって相手に伝える力がつきます。

みなさんから独創性あふれる優れた論文が多く寄せられることを期待しています。

## 1. 論文の書き方について

論文作成にあたっては募集要項および「論文の書き方についての注意」を参照してください。

なお、

- ・個人的な体験談のみのもの
- ・社会的ないし個人的な背景の解説だけのもの
- ・単なる感想文
- ・極端に文章量の少ないもの

など、「論文」とは言い難いものについては、評価選考の対象としないので注意してください。

過去の優秀論文については、各キャンパスの図書館で閲覧可能です。また本学HPにも掲載しています。

<http://www.hosei.ac.jp/campuslife/katsudo/kensho/index.html>

## 2. 教員による推薦と本審査・予備審査について

### 《教員による推薦について》

応募論文は原則として、提出前に教員による推薦を得てください。

「ゼミに所属していないため指導教員がいない」、「通信教育部生のため、ゼミ等に所属しておらず指導教員がいない」等の理由で、やむを得ず「教員による推薦」を得ずに応募する場合は予備審査の対象となります。

### 《審査について》

全ての論文について、懸賞論文審査委員会が評価します。審査は「予備審査（該当論文のみ）」「本審査」の順で行います。なお、懸賞論文審査委員会が必要と判断した場合は、応募者に対して面接を行う可能性があります。

### 《予備審査について》

教員による推薦を得ていない論文については、論文の体裁不備や剽窃等を確認するため、懸賞論文審査委員会による予備審査を行います。

なお予備審査は、募集要項および「論文の書き方についての注意」に則り論文の体裁や形式を確認するためのものであり、論文の内容については予備審査通過後、本審査で評価します。

### 《本審査について》

審査員および懸賞論文審査委員会が個々の論文について評価します。

### 3. 剽窃について

剽窃（ひょうせつ。他人の文章などの字句または説を、ことわりもなく盗んで自分のものとして発表すること。）は許されない行為であり、学生の本分に著しく反する行為です。インターネットや書籍だけでなく、ゼミ等で共有されている研究成果等も、出典を明示しないなど不適切な形で、自らの論文に記載して提出した場合は剽窃とみなされる可能性があります。剽窃とみなされる箇所がある場合は失格となります。また、剽窃が発覚した際には、所属学部へ通知する場合があります。なお、受賞後でも遡及して受賞を取り消すほか、何らかの処分の対象となる可能性があります。引用文献等がある場合、注や文献リストを用いて適切な書式で明記してください。

### 4. 二重投稿・再投稿について

既発表の論文や、学内外に限らず学会等に投稿中の論文と同一内容もしくは、極めて類似した論文を提出した場合は「二重投稿」とみなされる可能性があります。また、過去に法政大学懸賞論文に応募した論文に、発展的な内容を新たに追記せず、再度懸賞論文に応募する行為は「再投稿」とみなされる可能性があります。法政大学懸賞論文では、二重投稿や再投稿とみなされた論文は、審査対象外とする場合があります。

### 5. 結果発表について

審査結果は2018年2月中旬に本学HPおよび所属学部の掲示板で発表し、2月26日(月)に市ヶ谷キャンパスにおいて授賞式を行います(詳細は入賞者にのみ連絡します)。

### 6. 賞および賞金

総長特別賞	:	30万円
最優秀賞	:	20万円
優秀賞	:	15万円
佳作	:	5万円
入選	:	1万円

●応募論文が入賞あるいは入選した場合、応募代表者および共同作成者の学部学科・学年・氏名(フルネーム)・顔写真・論題・キーワードについて、本学HPや各学部掲示板・大学が発行する印刷物等で公表することがあります。

●総長特別賞、最優秀賞、優秀賞を受賞した論文については、法政大学学術機関リポジトリ <http://repo.lib.hosei.ac.jp/>への登録を行います。

以上

# 懸賞論文提出方法

## ■提出書類・データ（紙媒体および電子媒体）：

### 【紙媒体】

1. 第40回法政大学懸賞論文表紙【正】・・・※正本用
2. 第40回法政大学懸賞論文表紙【副】・・・※副本用
3. 論文要旨およびキーワード提出用シート
4. 論文本体（目次含む）

### 【電子媒体】（CD-ROM または USB メモリにて提出）

5. 懸賞論文提出表
6. 論文本体（目次含む） ※第40回法政大学懸賞論文表紙【正】【副】および「論文要旨およびキーワード提出用シート」のデータは添付しないでください。

※必要書類1・2・3・5は本学HPから入手してください。

キャンパスライフ→課外活動→法政大学懸賞論文→懸賞論文の募集に関する資料

<http://www.hosei.ac.jp/campuslife/katsudo/kensho/index.html>

## ■提出様式（紙媒体および電子媒体）：

### 【紙媒体】

#### ●3部（正本1部、副本2部）

※提出用論文3部のうち1部に「第40回法政大学懸賞論文表紙【正】」を、その他2部に「第40回法政大学懸賞論文表紙【副】」をつけて提出してください。

#### ●印刷様式：A4版・片面印刷

### 【電子媒体】

#### ●1枚のCD-ROM または USB メモリに記録し、簡易なケース（封筒可）に入れて提出してください。

※CD-ROM や USB メモリの表面もしくはケースに学生証番号と氏名を記入して提出してください。

※電子媒体は本人への返却は行わないので、提出前に必ずバックアップを取ってください。

#### ●ファイル形式：Microsoft Office Word (\*.doc, \*.docx, \*.docm) / Microsoft Office Excel (\*.xls, \*.xlsx, \*.xlsm)

※Excelは図表・統計類にのみ使用し、本文はWordで作成してください。

※PDFは不可とします。

## ■提出受付期間（紙媒体および電子媒体）：

**2017年9月25日（月）～2017年10月2日（月）【厳守】 ※当日消印有効**

## ■提出方法（紙媒体および電子媒体）：

### 郵送のみ（窓口提出不可）

※必ず「簡易書留」・「レターパックプラス」など配達記録が残る方法で送付してください。

※紙媒体と電子媒体は、同一の封筒に入れて郵送してください。

## ■提出先（紙媒体および電子媒体）：

〒102-8160

東京都千代田区富士見 2-17-1 法政大学市ヶ谷キャンパス 富士見坂校舎 5階  
法政大学懸賞論文事務局(学務部教学企画課) 宛

# 懸賞論文作成要領

## ■紙媒体■

《法政大学懸賞論文表紙【正】【副】について》

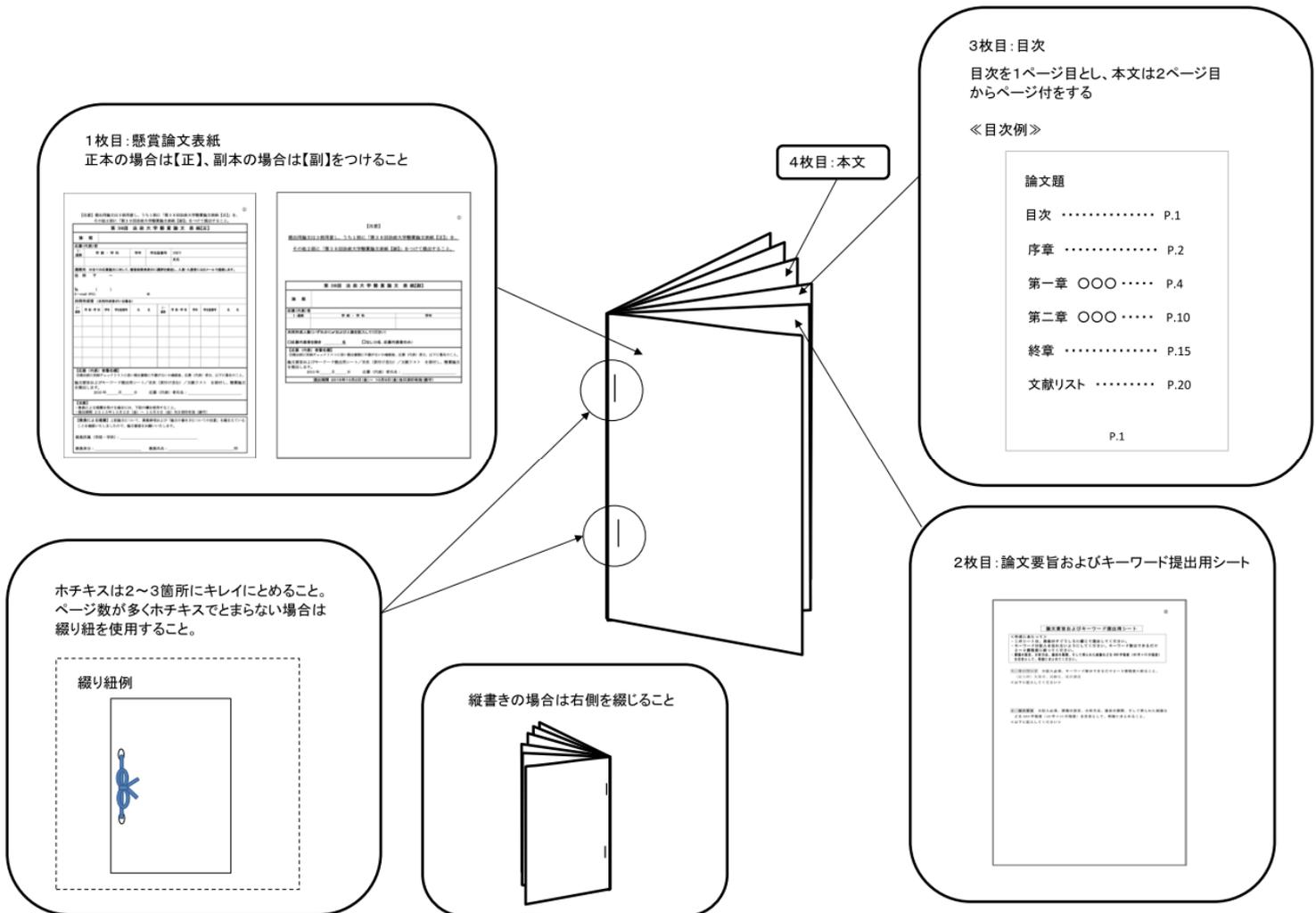
- 誤字・脱字の無いよう全ての項目を記入してください。
- 【教員による推薦】欄に推薦教員の署名・捺印をもらってください。  
※教員による推薦が無い場合は予備審査の対象となります。  
詳細は「2. 教員による推薦と本審査・予備審査について」(p.2)を参照してください。
- 全項目に不備が無いかを確認したうえで【応募代表者署名欄】に署名してください。

《論文要旨およびキーワード提出表シートについて》

- 論文要旨を600字程度(40字×15行程度)を目安としてまとめてください。

《綴じ順・綴じ方》

- 1枚目・・・所定の懸賞論文表紙【正】または【副】
  - 2枚目・・・記入済みの論文要旨およびキーワード提出表シート
  - 3枚目・・・目次(フッターのページ付は目次をP.1とし、本文をP.2からとします)
  - 4枚目・・・本文
- ホチキスは論文本体の左側2～3箇所にとめてください。
  - 論文が縦書きの場合は右側にホチキスをとめてください。
  - ページ数が多く、ホチキスでとまらない場合は綴り紐(2穴)を使用してください。



## ■電子媒体■

《懸賞論文データ・提出表の提出について》

- データに誤りが無いかを確認のうえ、懸賞論文データ・懸賞論文提出表、両方をCD-ROM またはUSB メモリに記録し、簡易なケース（封筒可）に入れて提出してください。
- CD-ROM やUSB メモリの表面もしくはケースに学生証番号と氏名を記入して提出してください。

## ■その他■

- (1) 本文中には「謝辞」は書かないでください。ただし、応募論文が入賞し、本学HP等に掲載することになった際は、謝辞の追記を認めます。
- (2) 応募論文の著作権は大学に帰属し、本人への返却は行いません。また、応募論文は、大学の個人情報保護規程に基づいて取り扱われます。なお、電子媒体も本人への返却は行わないので、提出前に必ずバックアップを取ってください。
- (3) 応募にあたり提出された個人情報は、法政大学懸賞論文の応募・審査等に関わる目的以外に使用することはありません。なお、応募論文が入賞あるいは入選した場合、応募代表者および共同作成者の学部学科・学年・氏名(フルネーム)・顔写真・論題・キーワードについて、本学HPや各学部掲示板・大学が発行する印刷物等で公表することがあります。
- (4) 提出された論文等に不備等があった場合、懸賞論文事務局から応募代表者の方にお電話(03-3264-9076/9317)でご連絡することがあります。

※応募にあたっては必ず紙媒体・電子媒体の両方を提出受付期間内に提出してください。

※提出後の修正や差し替えは一切認められません。

※事務局から論文受領の連絡は行いません。

必ず「簡易書留」、「レターパックプラス」など配達記録が残る方法で送付してください。論文が法政大学懸賞論文事務局に到着しているかは、各自で確認してください。

《応募・提出についての質問・連絡先》

東京都千代田区富士見2-17-1 法政大学市ヶ谷キャンパス 富士見坂校舎5階  
法政大学懸賞論文事務局(学務部教学企画課)

TEL: 03-3264-9076

# 論文の書き方についての注意

懸賞論文審査委員会

論文は既存の研究（文献）と異なるオリジナリティのある知見・発見を、妥当性のある議論を論理的・実証的に展開し、明晰に論じて得た言説です。

論文は読者に読んでもらうためのものであって、自分の覚え書きではありません。著者の主張を正確に伝えるには、長い伝統の中で確立してきた論文執筆の作法を踏まえて執筆することが肝要です。以下では論文執筆にあたり、特に注意すべき要点を述べておきます。

## 1. 問題設定・先行研究

論文の冒頭部分で問題設定を明確に行い、先行研究を参照してください。

- (1) 論文である以上、通常のスタイルとしては、その冒頭部分（序、はじめに、第一章、序論、プロローグ等）に、なぜこういう問題意識をもったのか、その理由あるいは自分の動機を書くことが望ましいです。
- (2) 論文全体がその問いに支えられ、全篇を通して、一貫性のある論理展開がなされ論述されるべきです。問題設定が不明確なままでは、何を主張したいのかが読者に正確に伝わりません。
- (3) 関連する先行研究を十分に調べることは論文執筆の基本です。既存研究で何がどこまでわかっており、あなたはこの研究の中で何をどこまで明らかにするのか。文献サーベイを通して、先行研究を踏まえた課題設定が重要です。

## 2. 末尾

論文の末尾部分（結論、結び、終わりに、終章、まとめ、エピローグ等）において、冒頭の「問題」に対応する「まとめ」を書くべきです。「序」と「結論」とは、呼吸が合っていなければなりません。

## 3. 調査

調査に基づく論文は、量的調査、質的調査にかかわらず以下の項目を明記してください。

- (1) 個人で実施した調査か、ゼミ等で実施した調査に参加したものか。
- (2) 調査の実施年月日、場所、対象者数、回収率、方法（面接法、郵送法等）。
- (3) 質問紙調査であれば調査票、半構造化面接調査であれば質問項目など、内容が理解できる資料を必ず添えること。

## 4. 研究者としての責任ある行動

学術研究を行う者には研究者としての社会的倫理に基づいた責任ある行動が求められます。特に、調査・インタビュー等などでご協力をいただいた方の個人情報、企業情報などの扱いやプライバシーの保護には十分に配慮する必要があります。

（法政大学研究開発センターHP（<http://kenkai.ws.hosei.ac.jp/fuseiboshi.html>）に掲載の「研究倫理規程」を参照）

## 5. 剽窃

自分の言葉と他者の言葉は明確に区別して執筆します。先行研究での到達点を示すことは論文を書く上での基本ですが、“コピペ”（コピー&ペーストの略語）、切り貼りだらけでは筆者のオリジナルな意見とは見なされないどころか、剽窃と判断され不正行為と見なされます。

したがって、長い引用で、直接引用する場合は2、3文字分、行頭から下げその箇所が引用であることを示し、引用文献を明記します。

## 6. 目次・注・文献リスト

目次、注および文献のリストを丁寧につけてください。

(1) 注は番号をふり、章末あるいは全体の末尾にまとめて記入するか、ページ毎に脚注として記入してください。なお引用注については、必ず引用箇所のページ数まで入れてください。

(2) 文献は、注とは別に、全体の末尾に文献リストを添えてください。

著者名、編者名、翻訳者名、書名あるいは論文名、掲載誌名、発行年、出版社名等を、明記してください。特にインターネット上の資料を掲載する場合には出典がはっきりしない場合があるので、URL およびアクセス年月日も付記してください（ただしインターネット上にある資料でも、書籍や雑誌、報告書など印刷媒体がある場合は、印刷媒体を優先してください）。

## 7. 論文の要旨の書き方

課題設定、分析方法、論旨の展開、そして得られた結論などを600字程度（40字×15行程度）を目安として、簡潔にまとめてください。査読者に自分の論文の意義をアピールするためには極めて重要です。

## 8. 執筆にあたって

早めに準備に着手し、書き直しをしてください。

(1) 一般に、一回の書き下ろしで良い完成稿をつくることは極めて困難です。第一次草稿→第二次草稿→（以下省略）→完成稿というように幾度も書き直して、できるだけ推敲を重ねると良いです。

(2) そのためには、早め早めに準備に着手し、書き直しをする時間的余裕を作るように工夫してください。時間切れのため、後半部分が展開不足となり惜しまれる論文がかなり多いです。

論文を書く準備として、常日頃から「読書ノート（あるいはカード）」と「自分の考え・発想を記すノート（あるいはカード）」という二系列のノートを蓄積しておくのが良いです。知識と発想の組織的蓄積なしには、良い論文を書くことはできません。

## 9. 論文の書き方推薦図書

論文の書き方について解説している本は多数ありますが、2000年以降に出版された代表的な書籍を以下に示します。なお、本学図書館のHPの「法政大学蔵書検索システム(OPAC)」や「パスファインダー(テーマ別探し方ガイド)」などを利用すると良いです。

時事教育研究会編著(2000年)『論文・レポートの書き方と作文技法』画文堂

白井利明・高橋一郎(2013年)『よくわかる卒論の書き方』[第2版] (やわらかアカデミズム<わかる>シリーズ) ミネルヴァ書房

田中共子編(2009年)『よくわかる学びの技法 [第2版]』(やわらかアカデミズム<わかる>シリーズ) ミネルヴァ書房

戸田山和久著(2012年)『新版 論文の教室—レポートから卒論まで』NHK ブックス 1194

河野哲也著(2002年)『レポート・論文の書き方入門』慶応義塾大学出版会

石黒圭著(2012年)『論文・レポートの基本—この1冊できちんと書ける!』日本実業出版社

小笠原喜康著(2009年)『新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書

斎藤 孝、西岡達裕著(2005年)『学術論文の技法 新訂版』日本エディタースクール出版

酒井 聡樹著(2015年)『これから論文を書く若者のために 究極の大改訂版』共立出版

櫻井 雅夫著(2003年)『レポート・論文の書き方上級 改訂版』慶應義塾大学出版会

高木 隆司著(2003年)『理科系の論文作法』丸善

井下千以子著(2013年)『思考を鍛えるレポート・論文作成法』慶応義塾大学出版会

佐藤望編著、湯川武、横山千晶、近藤明彦著(2012年)『アカデミック・スキルズ: 大学生のための知的技法入門 第二版』

以上

【注意】提出用論文は3部用意し、うち1部に「第40回法政大学懸賞論文表紙【正】」を、その他2部に「第40回法政大学懸賞論文表紙【副】」をつけて提出すること。

## 第40回 法政大学 懸賞論文 表紙【正】

論 題	
-----	--

**応募(代表)者**

I・ 通教	学部・学科	学年	学生証番号	フリガナ
				氏名

**連絡先** ※全ての応募論文に対して、審査結果発表日に講評を郵送し、入賞・入選者にはEメールで連絡します。

**住 所** 〒 \_\_\_\_\_

**Tel** ( \_\_\_\_\_ ) \_\_\_\_\_

**E-mail (PC):** \_\_\_\_\_ @ \_\_\_\_\_

**共同作成者 (共同作成者がいる場合)**

I・ 通教	学部・学科	学年	学生証番号	氏 名	I・ 通教	学部・学科	学年	学生証番号	氏 名

**【応募(代表)者署名欄】**

◎提出前に別紙チェックリストに従い提出書類に不備がないか確認後、応募(代表)者は、以下に署名のこと。

論文要旨およびキーワード提出用シート／目次(頁付け含む)／文献リスト を添付し、懸賞論文を提出します。

2017年\_\_\_\_月\_\_\_\_日 応募(代表)者氏名: \_\_\_\_\_

**【注意】**

- ・ 教員による推薦を受ける場合には、下記の欄を使用すること。
- ・ 提出期間 2017年9月25日(月)～10月2日(月)当日消印有効(厳守)

**【教員による推薦】** 上記論文について、募集要項および「論文の書き方についての注意」を踏まえていることを確認いたしましたので、論文審査をお願いいたします。

教員所属(学部・学科): \_\_\_\_\_

教員身分: \_\_\_\_\_ 教員氏名: \_\_\_\_\_ 印

【注意】

提出用論文は3部用意し、うち1部に「第40回法政大学懸賞論文表紙【正】」を、  
その他2部に「第40回法政大学懸賞論文表紙【副】」をつけて提出すること。

第40回 法政大学懸賞論文表紙【副】

論 題

応募(代表)者

I・通教

学部・学科

学年

共同作成人数(いずれかに✓および人数を記入してください)

応募代表者を除き \_\_\_\_\_ 名       なし(0名, 応募代表者のみ)

【応募(代表)者確認欄】

◎提出前に別紙チェックリストに従い提出書類に不備がないか確認後、応募(代表)者は、以下の□に✓を記入すること。

私は、論文要旨およびキーワード提出用シート／目次(頁付け含む)／文献リスト を添付し、懸賞論文を提出します。

提出期間 2017年9月25日(月)～ 10月2日(月)当日消印有効(厳守)

## 論文要旨およびキーワード提出用シート

＜作成にあたって＞

- ・このシートは、表紙のすぐうしろに綴じて提出してください。
- ・キーワードの記入を忘れないようにしてください。キーワード数はできるだけ2～3個程度に絞ってください。
- ・課題の設定、分析方法、論旨の展開、そして得られた結論などを600字程度（40字×15行程度）を目安として、明確にまとめてください。

1. キーワード ※記入必須。キーワード数はできるだけ2～3個程度に絞ること。

（記入例）失業率、高齢化、統計調査

《以下に記入してください》

2. 論文要旨 ※記入必須。課題の設定、分析方法、論旨の展開、そして得られた結論などを600字程度（40字×15行程度）を目安として、明確にまとめること。

《以下に記入してください》

提出前に提出書類に不備がないか、このチェックリストを利用して確認してください  
— このチェックリストは、提出する必要はありません —

## 懸賞論文提出書類 チェックリスト

応募論文について、以下の項目を満たしているか確認のうえ✓をつけてください。  
所定の条件、論文としての体裁を満たしていない場合、失格となることがあります。  
必ず募集要項等に目を通し、不備のないよう注意してください。

- 「論文要旨およびキーワード提出用シート」は添付してありますか
- キーワードは2～3個程度記入してありますか（記入必須。）
- 目次ページはありますか
- 目次ページを1ページ目とし、目次・本文に頁付けをしてありますか
- 文献のリストはついていますか
  - ・文献リストには、著者名、編者名、翻訳者名、書名あるいは論文名、掲載誌名、発行年、出版社名等を、明記すること。特にインターネット上の資料を掲載する場合には出典がはっきりしない場合があるので、URLおよびアクセス年月日も付記すること。
  - ・インターネット上にある資料でも、書籍や雑誌、報告書など印刷媒体がある場合は、印刷媒体を優先すること。
- 参考・引用した全ての資料について、出典を明記してありますか
- 注は番号をふり、章末あるいは全体の末尾にまとめて記入、あるいはページ毎に脚注として記入してありますか（なお引用注については、引用箇所へのページ数も必ず入れること）
- 論文字数は守られていますか
- 誤字脱字はありませんか
- 教員による推薦は得ましたか（教員による推薦を得ていない論文は予備審査の対象となります）
- 提出用論文は、紙媒体（3部）と電子媒体の両方を用意しましたか

剽窃（ひょうせつ。他人の文章などの字句または説を、ことわりもなく盗んで自分のものとして発表すること。）は許されない行為であり、学生の本分に著しく反する行為です。インターネットや書籍だけでなく、ゼミ等で共有されている研究成果等も、出典を明示しないなど不適切な形で、自らの論文に記載して提出した場合は剽窃とみなされる可能性があります。剽窃とみなされる箇所がある場合は失格となります。また、剽窃が発覚した際には、所属学部へ通知する場合があります。なお、受賞後でも遡及して受賞を取り消すほか、何らかの処分の対象となる可能性があります。引用文献等がある場合、注や文献リストを用いて適切な書式で明記してください。

### < 注 意 >

応募論文が受賞あるいは入選した場合、応募代表者および共同作成者の学部学科・学年・氏名（フルネーム）・顔写真・論題・キーワードについて、本学HPや各学部掲示板・大学が発行する印刷物等で公表することがあります。また、一部の論文については、法政大学学術機関リポジトリへの登録を行います。

※シート2の【記入例】も参照のこと

第40回(2017年度)法政大学懸賞論文提出表(案)					
論 題					
文字数		キーワード	①	②	③
ゼミ担当教員氏名			推薦教員氏名 ※欄外の注を確認すること		
<b>応募代表者</b>					
学部	学科	学年	学生証番号		
フリガナ					
氏 名					
連絡先(電話番号)					
連絡先(メールアドレス)					
<b>共同作成者</b>					
共同作成者数:			名		
1	学部	学科	学年	学生証番号	氏名
2	学部	学科	学年	学生証番号	氏名
3	学部	学科	学年	学生証番号	氏名
4	学部	学科	学年	学生証番号	氏名
5	学部	学科	学年	学生証番号	氏名
6	学部	学科	学年	学生証番号	氏名
7	学部	学科	学年	学生証番号	氏名
8	学部	学科	学年	学生証番号	氏名
9	学部	学科	学年	学生証番号	氏名
10	学部	学科	学年	学生証番号	氏名

※「ゼミに所属していないため指導教員がない」、  
「通信教育部生のため、ゼミ等に所属しておらず指導教員がない」等の理由で、やむを得ず「教員による推薦」を得ずに応募する場合は「なし」と記入してください。

<<記入例>>

懸賞論文募集要項「字数・文字の大きさに記載されている「**字数のカウント方法について**」(p.1)を確認のうえ、入力してください。

フルネームを記入してください。

応募代表者を**含まない**人数を入力してください。

第〇〇回(〇〇〇〇年度)法政大学懸賞論文提出表					
論 題	現代社会における自己と他者の関係性				
文字数	5,305字	キーワード	① 失業率	② 高齢化	③ 統計調査
ゼミ担当教員氏名	法政 ふじ彦		推薦教員氏名 ※欄外の注を確認すること		法政 ふじ彦
<b>応募代表者</b>					
学部	学科	学年	学生証番号		
法	法律	3	13A9876		
フリガナ	ホウセイ タロウ				
氏 名	法政 太郎				
連絡先(電話番号)	03-3264-9076				
連絡先(メールアドレス)	kensho2017@ml.hosei.ac.jp				
<b>共同作成者</b>					
共同作成者数:		2 名			
1	学部	学科	学年	学生証番号	氏名
	法	政治	4	14A9876	法政 花子
2	学部	学科	学年	学生証番号	氏名
	法	国際政治	3	15A9876	法政 一郎
3	学部	学科	学年	学生証番号	氏名
4	学部	学科	学年	学生証番号	氏名
5	学部	学科	学年	学生証番号	氏名
6	学部	学科	学年	学生証番号	氏名
7	学部	学科	学年	学生証番号	氏名
8	学部	学科	学年	学生証番号	氏名
9	学部	学科	学年	学生証番号	氏名
10	学部	学科	学年	学生証番号	氏名

「論文要旨およびキーワード提出用シート」(論文紙媒体2枚目)に入力したキーワードと**同じもの**を記載してください。

※「ゼミに所属していないため指導教員がない」、「通信教育部生のため、ゼミ等に所属しておらず指導教員がない」等の理由で、やむを得ず「教員による推薦」を得ずに応募する場合は「**なし**」と記入してください。